

独立行政法人沖繩科学技術研究基盤整備機構の業務執行状況

平成18年度沖繩科学技術研究基盤整備機構年度計画	平成18年度上半期業務執行状況
<p>1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置</p> <p>(1) 研究活動</p> <p>① 銅谷・柳田の2研究ユニットの研究評価に着手(平成18年度末)。 外部の評価委員を選任し、それぞれに評価委員会を設置する。 評価対象研究ユニットは研究成果の報告書を作成し、これに基づき、評価委員会が研究評価を行う。 (具体的な評価は平成19年度)</p>	<p>年度末に2研究ユニットの研究評価に着手する予定としている。</p>

平成18年度沖縄科学技術研究基盤整備機構年度計画	平成18年度上半期業務執行状況
<p>② 霊長類研究開始のための調査を行う。</p> <p>ワークショップを開催し、その後、機構内部のプロジェクトグループを拡大し、外部の研究者を加える。</p> <p>平成18年度後半には国際ワークショップを開催する。</p> <p>また、数理生物学分野においても2つのワークショップを開催する。最初は国内中心、2つめは国際ワークショップを開催する。</p>	<p>国内の有力な研究者を参集して、「OIST ワークショップ：これからの霊長類脳研究」を開催した。</p> <p>目的：霊長類の脳研究で今後重要となる研究テーマ、新技術、研究施設、保護繁殖、倫理などに関して幅広く提言を募り、OIST 新キャンパスでの霊長類脳研究センター開設による貢献の可能性と課題を議論する。</p> <p>開催日時：平成18年5月14日（日）～16日（火）</p> <p>開催場所：沖縄マリオットリゾートアンドスパ（名護市）</p> <p>参加人数：34名</p> <p>同テーマの国際ワークショップについては、平成19年3月に開催する予定で、現在準備を進めている。</p>

平成18年度沖縄科学技術研究基盤整備機構年度計画	平成18年度上半期業務執行状況																																		
<p>③ 引き続き代表研究者選定を進める。 ポストドクと技術員については各研究者が選定する。</p>	<p>代表研究者の選定を進めた結果、これまでに新たに2名の代表研究者が着任した（新規2ユニット発足）。</p> <p>(参考) ユニット別研究者等数（平成18年10月1日現在）</p> <table border="1" data-bbox="491 331 1347 1070"> <tbody> <tr> <td colspan="2">●神経計算ユニット（代表研究者 銅谷賢治）</td> </tr> <tr> <td>代表研究者、研究員</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td>テクニカルスタッフ</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td colspan="2">●分子神経生物学ユニット（代表研究者 遠藤昌吾）</td> </tr> <tr> <td>代表研究者、研究員</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>テクニカルスタッフ</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td colspan="2">●G0細胞ユニット（代表研究者 柳田亮弘）</td> </tr> <tr> <td>代表研究者、研究員</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>テクニカルスタッフ</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td colspan="2">●電子線ホログラフィーユニット（代表研究者 外村彰）</td> </tr> <tr> <td>代表研究者、研究員</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td colspan="2">●分子神経科学ユニット（代表研究者 シドニー・ブレナー）</td> </tr> <tr> <td>代表研究者、研究員</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>テクニカルスタッフ</td> <td>2名</td> </tr> </tbody> </table>	●神経計算ユニット（代表研究者 銅谷賢治）		代表研究者、研究員	7名	テクニカルスタッフ	5名	その他	3名	●分子神経生物学ユニット（代表研究者 遠藤昌吾）		代表研究者、研究員	3名	テクニカルスタッフ	5名	その他	1名	●G0細胞ユニット（代表研究者 柳田亮弘）		代表研究者、研究員	6名	テクニカルスタッフ	6名	その他	2名	●電子線ホログラフィーユニット（代表研究者 外村彰）		代表研究者、研究員	3名	●分子神経科学ユニット（代表研究者 シドニー・ブレナー）		代表研究者、研究員	1名	テクニカルスタッフ	2名
●神経計算ユニット（代表研究者 銅谷賢治）																																			
代表研究者、研究員	7名																																		
テクニカルスタッフ	5名																																		
その他	3名																																		
●分子神経生物学ユニット（代表研究者 遠藤昌吾）																																			
代表研究者、研究員	3名																																		
テクニカルスタッフ	5名																																		
その他	1名																																		
●G0細胞ユニット（代表研究者 柳田亮弘）																																			
代表研究者、研究員	6名																																		
テクニカルスタッフ	6名																																		
その他	2名																																		
●電子線ホログラフィーユニット（代表研究者 外村彰）																																			
代表研究者、研究員	3名																																		
●分子神経科学ユニット（代表研究者 シドニー・ブレナー）																																			
代表研究者、研究員	1名																																		
テクニカルスタッフ	2名																																		

平成18年度沖繩科学技術研究基盤整備機構年度計画	平成18年度上半期業務執行状況
	<p>●分子神経科学ユニット (代表研究者 丸山一郎) 代表研究者、研究員 8名 テクニカルスタッフ 3名 その他 2名</p> <p>●分子神経科学ユニット (代表研究者 内藤隆之) 代表研究者、研究員 5名 テクニカルスタッフ 3名 その他 1名</p> <p>●数理生物学ユニット (代表研究者 ロバート・シンクレア) 代表研究者 1名</p> <p>●神経発生ユニット (代表研究者 政井一郎) 代表研究者、研究員 3名</p> <p><input type="checkbox"/>が今年度新規着任・発足分。</p>

平成18年度沖縄科学技術研究基盤整備機構年度計画	平成18年度上半期業務執行状況
<p>(2) 研究成果の普及</p> <p>① IRP (大学院大学先行研究プロジェクト) の活動をとりまとめた年次報告書を作成する。</p> <p>② 様々なセミナーや講演の開催、科学雑誌への論文投稿、国際学会参加を引き続き行う。</p> <p>また、一般市民や社会に対する広報活動を強化すべく、ニューズレターを発刊するとともにホームページの改善等を図る。</p>	<p>2005年度の年次報告書を作成し、頒布済み。</p> <p>青少年の科学技術に対する理解と大学院大学への関心を高めることを目的に、プレナー理事長を講師として、県内の高校生を対象とした科学技術講演会を開催した。</p> <p>(日 時：平成18年7月3日) (場 所：ロワジールホテル) (参加者：約180人)</p> <p>機構のホームページについては、随時更新し改善を図っている。</p> <p>また、ニューズレターについては、発刊に向けて、その内容、デザイン、対象者等につき検討を行っているところである。</p>

平成18年度沖繩科学技術研究基盤整備機構年度計画	平成18年度上半期業務執行状況
<p>(3) 研究者養成活動</p> <p>① 様々な研究機関及び大学と、連携大学院制度の活用などの協力プログラムの実施について積極的に推進する。</p> <p>② 研究計画策定や教育プログラムに関連した内容のワークショップを開催する。</p>	<p>本年4月、新たに琉球大学と学術交流に関する協定を締結した。現在、奈良先端科学技術大学院大学及び琉球大学と協定を締結。</p> <p>以下のワークショップを開催した。</p> <p>○ 国際ワークショップ「一分子解析」 [開催日時：平成18年4月17日(月)～21日(金) 開催場所：万国津梁館(名護市) 参加人数：講師11名、受講者32名]</p> <p>○ 沖縄計算神経科学コース2006 [開催日時：平成18年6月26日(月)～7月6日(木) 開催場所：OISTシーサイドハウス(恩納村) 参加人数：講師17名、チューター10名、受講者38名]</p>

平成18年度沖縄科学技術研究基盤整備機構年度計画	平成18年度上半期業務執行状況
	<p>○ 「OISTワークショップ：これからの霊長類脳研究」 (再掲：P2 参照)</p> <p>目的：霊長類の脳研究で今後重要となる研究テーマ、新技術、研究施設、保護繁殖、倫理などに関し幅広く提言を募り、OIST 新キャンパスでの霊長類脳研究センター開設による貢献の可能性と課題を議論する。</p> <p>開催日時：平成18年5月14日(日)～16日(火) 開催場所：沖縄マリオリゾートリゾートアンドスパ(名護市) 参加人数：34名</p> <p>また、以上のほか、年度内に複数のワークショップを開催すべく準備を行っているところである。</p>

平成18年度沖繩科学技術研究基盤整備機構年度計画	平成18年度上半期業務執行状況
<p>(4) 大学院大学設置準備活動</p> <p>① 科学技術分野の大学院教育に関連する会合を開催する。 また、大学院大学設置準備活動のための特別のアドバイザーを任命し、国際的な活動について責任を負う。</p> <p>② 将来の科学的活動の計画づくりについて支援を行う科学顧問グループの創設。</p>	<p>理事長から、運営委員会に対して、どのようにして大学院教育の使命を達成するかについて、理事長が調査するとの提案を送付した。運営委員会から正式な回答を受領していないもの、理事長は議論のためのプランを本年内まで準備する。</p> <p>理事長は、より長期的な研究の展開について運営委員会に助言を行う科学顧問グループを、運営委員会が主体となって創設することを、運営委員会に提案した。現在のところ、回答はない。</p> <p>現時点で延期された会合の準備を行うことを当初の任務として、クリス・タン博士が特別顧問に任命された。タン博士は、韓国・香港・シンガポール・中国を含むアジア太平洋地域における研究機関との国際関係の構築に向け、引き続き理事長を支援していく。</p>

平成18年度沖繩科学技術研究基盤整備機構年度計画	平成18年度上半期業務執行状況
<p>(5) 施設整備</p> <p>① 実施設計作業を進める。</p> <p>② 速やかな開発許可の取得</p> <p>③ 正式な入札手続きを実施して工事契約を行い、今年度後半での造成工事着手を目指す。</p> <p>④ 造成工事の着手前に、建設予定地内の民有地の買収を完了する。</p>	<p>① 実施設計の準備のため、6月初めに基本設計レビュー委員会を設置し、6月末に第1回のレビュー委員会開催。実施設計業者を日建設計・コンバーク・國建JV、に決定し、9月下旬に正式契約済。</p> <p>② 環境アセスメントとの整合性を図りつつ、開発許可に必要な書類を準備中。11月に、開発許可申請書を提出予定。</p> <p>③ 現在、入札方式を検討中。年初を目途に入札を実施し、造成業者を決定する予定</p> <p>④ 6月中旬に、地権者に対し土地買収の一般的な説明を実施。10月初めから、地権者に買収価格を提示。現在買収交渉中。</p>

平成18年度沖繩科学技術研究基盤整備機構年度計画	平成18年度上半期業務執行状況
<p>2 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 管理運営及び財務</p> <p>① 理事長の強力なリーダーシップの下で内閣府と緊密に連携し、個別のプロジェクトを企画推進する。</p> <p>② 研究活動の活発化のためにCOP I（代表研究者委員会）の役割を強化する。</p> <p>③ MACO（業務運営委員会）についても、法人運営の諸課題に重要な機能を果たすため、引き続き開催する。</p> <p>④ 機構設立時に暫定的に定められた諸手続を見直す。</p> <p>⑤ 法人運営の重要分野における本格的な総合業務システムの導入により効率と実効性の向上を期する。</p>	<p>特別顧問に任命された北野博士の下で、まず国内の研究者の参集を得たワークショップを開催し、その後海外の研究者の参集も得た国際ワークショップを開催するという霊長類脳研究のプロジェクトと同様のやり方で、数理生物学に関する特別のプロジェクトが開始された。</p> <p>【COP I の開催状況】 第6回(4/14)、第7回(5/24)、第8回(7/5)、第9回(8/24)、第10回(9/21)</p> <p>【MACO の開催状況】 第6回(4/12)、第7回(5/24)、第8回(9/22)</p> <p>諸規則が暫定的に定められてきてきているところであるが、既存の規則及び今後策定する規則の改善を図るべく、現在見直しが進められている。</p> <p>6月20日に研究者及び研究支援担当者等を集めて、旅費システム操作説明会及びシステム改善検討会を開催し、その問題点や機能改善を検討して、9月29日に改修プログラムを導入し、機能追加により効率的なシステム構築に努めた。</p>

平成18年度沖繩科学技術研究基盤整備機構年度計画	平成18年度上半期業務執行状況
<p>(2) 運営委員会関連</p> <p>① 理事長は、運営委員会議長との密接な連携を図る。</p> <p>② 平成18年度においては、少なくとも2回運営委員会を開催する。</p> <p>3 予算、収支計画及び資金計画</p> <p>4 短期借入金の限度額 上限10億円。</p> <p>5 重要な財産の処分等に関する計画 計画なし。</p>	<p>運営委員会を5月に東京で開始し、機構から、年次計画を提示するとともに、いくつかの報告を行った。主な議題は、キヤンパス基本設計の検討と承認であった。</p> <p>運営委員会は、独自の事務局の設置を要求したところであり、現在その実施のための作業中である。</p> <p>該当なし（上期に短期借入金は行わなかった。）</p>

平成18年度沖繩科学技術研究基盤整備機構年度計画	平成18年度上半期業務執行状況
<p>6 剰余金の使途 研究事業の充実及び研究環境の整備に充てる。</p> <p>7 その他内閣府で定める業務運営に関する事項 (1) 積立金の処分に関する事項 計画なし。</p>	<p>該当なし(平成17事業年度決算において目的積立金がないため、該当なし。)</p>